

《戸板島廻国塔の墓石について》(資料1を参照)

廻国(六十六部廻国)とは、日本全国六十六ヶ国を巡礼し、一国につき一ヶ所の寺院などの霊場に、書写した法華経を一部ずつ奉納することである。一般的に廻国中は、いつ死んでもよいように白装束(死に装束)を身に着けている。

越ヶ谷宿新町の七郎兵衛が廻国中、享年五十九歳、四国にて亡くなったことが、日本石仏協会理事の岡本庄造氏から手紙で知らせがあったのがきっかけで調査を行った。

高知市の東北東十五キロメートルの地点にある観音堂の前に、寛延四年(一七五二)の廻国塔の墓石がある。所在地は土佐山田町戸板島。観音堂の北側に四国弘法大師札所巡りの東西に続く旧お遍路道があり、東方の近くには物部川モノベノカハが流れている。(資料1) 高知市加賀野井二丁目の岡村庄造氏の説明によると次の通りである。

( )内は加藤の加筆である。(資料1とを参照)

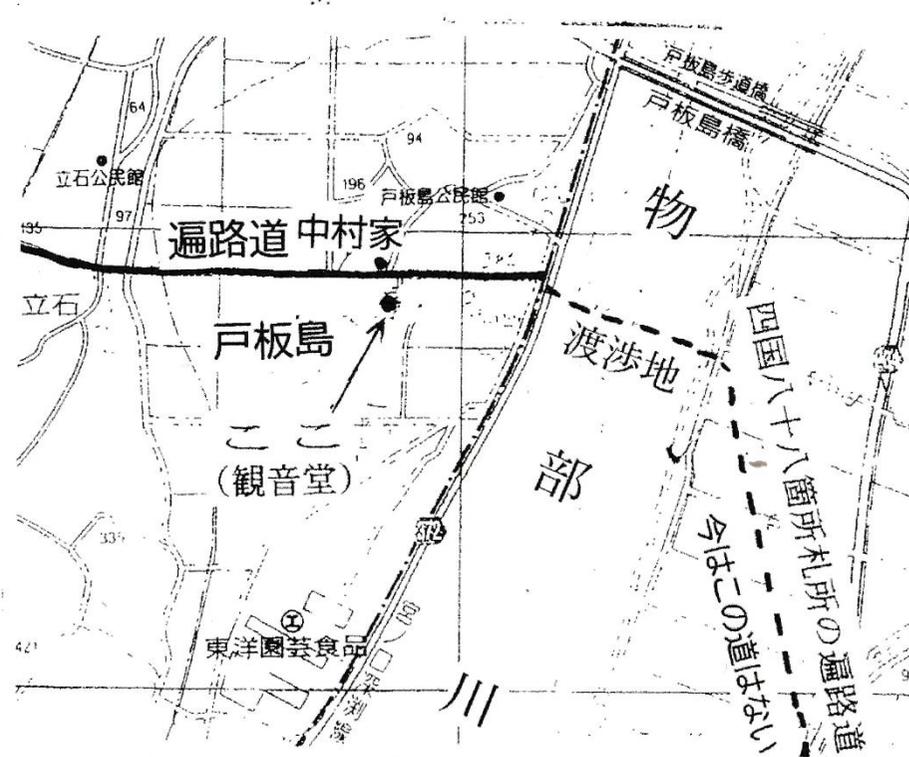
「台座銘は向かって左側の『佐古郷戸板島村』は石塔の現在場所で、中村氏は当村代々の庄屋です。現在も末裔が同所に住んでおり、同封写真の内、お堂の後方に写っている家がそうです。」「死亡の「六十六部の」行者七郎兵衛は、遍路コースに当たる戸板島のお堂(昔はもつと大きく、寝泊りできたと思われる)を根拠地として、治療や除災、その他祈祷などをして地域の住民に恩恵をもたらしていたでありましょうか。特に人の集まっている後免町(南国市後免町)方面へ力を注ぎ、多くの信者を得ていたものと解されます。没後、これ程の石塔を作ってもらえるのはその証です。」「以上、岡村氏《武州埼玉郡越ヶ谷新町 七郎兵衛》(地図1〜4を参照)

資料2の中程の台座に刻まれた「武州さき玉郡こしがい新町」「六十六部七郎兵衛」とは、越ヶ谷宿の新町の「会田七郎兵衛屋敷」を指すのであろう。江戸時代の文化文政年間の末から初年にかけて作成された「越ヶ谷瓜の蔓」の中の日光道中に沿った町並みを紹介した「越谷市史四 史料2」の六三・六四頁の地図の新町(新石1丁目〜3丁目)に「コブ七郎兵衛」「コブとは隠居部屋」と「会田七郎兵衛」の文字が見られる。「地図1」の地図では、※3)「コブ七郎兵衛」と※1)「会田七郎兵衛」である。

また「地図4」の現代の地図には、瓦曽根村のそばの「会田七郎兵衛屋敷」とそこから北の「会田七郎兵衛屋敷・隠居部屋」の場所を示した。隠居して廻国したと思われる当主の会田七郎兵衛は「会田七郎兵衛屋敷・隠居部屋」の方に移り住んでいたであろう。

なお「地図1」は越谷市史で紹介された草稿本による解読で、草稿本ではない原本の「コピー」を手に入れて掲載したのが「地図2」(原本)である。「地図3」はその解読である。瓦曽根村のそばの「会田七郎兵衛」は「こ」では「会田七郎兵衛屋敷」と記載され、「コ」は「コブ七郎兵衛」も同様に「会田七郎兵衛屋敷」と記載されている。以上から市史では、地図1の※3)に記載された「コブ七郎兵衛」とは「会田七郎兵衛」を指していること断定できた。

廻国塔



資料1

「戸板島」周辺地図



観音堂

岡村庄造氏撮影

※写真中の地蔵の廻国塔の部分ははっきりとした写真に置き換えています。

地蔵の廻国塔

かいこく  
戸板島廻国塔の台座の文字



寛延四年未天

(一七五〇)  
寛延四年未天

須傳心禪定門靈位

須傳心禪定門靈位

六月十四日

六月十四日

武刃さき玉郡新町

(武州)  
武刃さき玉郡こしかい  
新町

六十六部七郎兵衛墓

六十六部七郎兵衛墓

行年五十九此所而没

行年五十九此所<sub>(三)</sub>而没

佐古郷戸板嶋村

佐古郷戸板嶋村

中村勘六

中村勘六

村上伴五郎

村上伴五郎

同町 田所安兵衛

同町  
田所安兵衛

施主後免町

岡村庄造氏作成

(台座 中25cm  
高34cm)

H16.P.4 拓

地図1

△	善右衛門	庄	藏
△	丸屋兵衛	丸	藏
△	宇古兵衛	宇	藏
△	大郎兵衛	大	藏
△	清左衛門	清	藏
△	会田平五郎兵衛	会	藏
△	午之助	午	藏
△	長兵衛	長	藏
△	米七右衛門	米	藏
△	源兵衛	源	藏
△	中村	中	藏
△	利兵衛	利	藏
△	海寺	海	藏
△	八幡宮	八	藏
△	大平左衛門	大	藏
△	弥大平左衛門	弥	藏
△	作兵衛	作	藏
△	藤兵衛	藤	藏
△	八兵衛	八	藏
△	勘兵衛	勘	藏
△	会田久右衛門	会	藏
△	松兵衛	松	藏
△	小宮山兵衛	小	藏
△	吉郎兵衛	吉	藏

〔大沢方面〕

〔日光道中〕

「越谷市史四 史料二」62頁～64頁

- ※1. 会田七郎兵衛
- ※2. 「釘屋」とは、現在の「針清」の井橋家
- ※3. 「コブ 七郎兵衛」のコブとは、隠居部屋のこと。七郎兵衛とは会田七郎兵衛のこと。
- ※4. 「白屋」とは、現在の「旅館白屋」跡(行徳屋の北隣り)
- ※5. 「丸屋」とは、現在の丸屋葬儀社

△	悪水堀	兵藏
※1	会田七郎兵衛	兵藏
※2	会田源兵衛	兵藏
※2	六郎兵衛跡	兵藏
※2	会田藤右衛門	兵藏
※2	釘屋 太郎兵衛屋敷半	兵藏
※2	醫師 竜玄屋敷半	兵藏
※2	大野 新左衛門屋敷	兵藏
※2	宗右衛門	兵藏
※2	源兵衛	兵藏
※2	又兵衛	兵藏
※2	彦兵衛	兵藏
※2	庄吉	兵藏
※2	田右衛門	兵藏
※2	市郎右衛門	兵藏
※2	上川 清八	兵藏
※2	仙台 庄左衛門	兵藏
※2	六郎兵衛分地	兵藏
※2	コブ 七郎兵衛	兵藏
※3	酒井平八	兵藏
※4	白屋 弥兵衛	兵藏
※4	五郎左衛門	兵藏
※4	織之助	兵藏
※4	安兵衛	兵藏
※4	庄左衛門	兵藏
※4	源兵衛	兵藏
※4	清兵衛	兵藏
※4	忠兵衛	兵藏
※4	田端 吉兵衛	兵藏
※4	米屋 庄吉	兵藏
※4	与兵衛	兵藏
※4	半軒屋敷	兵藏
※4	清右衛門	兵藏
※4	清右衛門	兵藏
※4	孫四郎	兵藏

〔瓦曾根村〕

※5





# 越ヶ谷宿の町並み ウォーキング 地図

加藤幸一



## 日進銀行

越ヶ谷支店長 中村彦左衛門(瓦曾根)  
 浅草本店頭取 稲垣市兵衛(東京浅草)  
 明治42年(1909)~大正15年(1926)  
 のち、川崎第百銀行、埼玉銀行と変遷

## 会田七郎兵衛屋敷 隠居部屋

## 井橋家 (釘清・「釘屋」)

## 会田七郎兵衛屋敷

## 栃木銀行

## 越ヶ谷駅